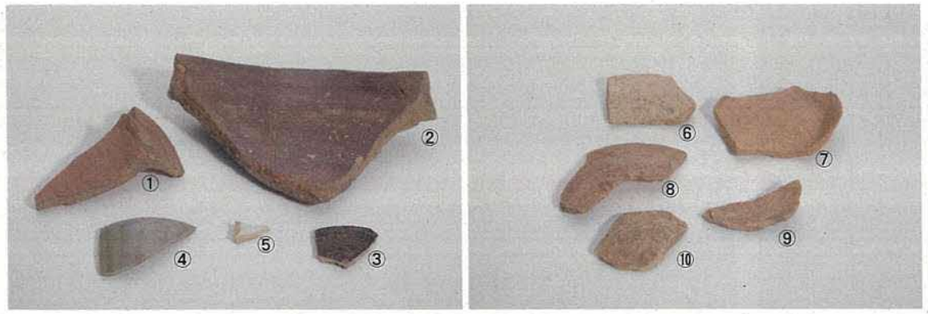

15世紀後半から16世紀前半までに作られた擂鉢（備前焼：①、②）、天目茶碗（古瀬戸：③）、青磁碗（④）・白磁皿（⑤）（中国陶磁）、土師質土器の皿⑥～⑩などが見つかっています。

写真７　出土した陶磁器・土器

4 まとめと課題

- 県内で戦国時代の山城跡を発掘調査した例は少ないものの、部分的ながら当時の曲輪内の居住建物、横堀と竪堀といった防御施設の一部が明らかになりました。
- 狗戸那城は立地、構造等からみて戦国時代の西因幡において重視すべき城でありながら、江戸時代の地誌『因幡志』に取り上げられている程度で、その来歴や役割が不明で、謎が多くあまり重視、注目されていませんでした。
- 大型の礎石建物から、戦国大名や大規模な国人領主クラスが居城していた時期があったと考えられ、遺構の不統一性や巧妙な土木工事の痕跡等から、軍事上重要な拠点であったと考えられるなど、外部勢力（但馬山名、出雲尼子、安芸毛利、亀井（織田方））が覇を競ったこの地域の歴史を解明する手がかりとなりました。

関　連　年　表

和暦	西暦	西因幡における戦国史（鹿野を中心に）
天文１３	１５４４	尼子軍が大崎城、鹿野城を攻略、鳥取・私部を狙うも帰国（４月）（「陰徳太平記」）
天文１５	１５４６	橋津川合戦で勝利した尼子軍は鹿野まで進出（６月）（「戦死武功書出」）
天文１６	１５４７	山名豊定が因幡で活動
永禄６	１５６３	武田軍の攻撃で天神山城落城、豊数らは鹿野へ逃走（１２月）
永禄７	１５６４	毛利衆と伯耆衆が鹿野麓に山名衆を襲撃（７月）
永禄１２	１５６９	湯原元綱が鹿野、諸寄に在番中（６月）
元亀元	１５７０	山田重直の家臣が鹿野新山から小畑に出陣し合戦（１１月）
天正元	１５７３	毛利輝元、野村士悦に鹿野在番を命ず（８月）輝元、野村士悦に鹿野古城の普請を命ず（９月）
天正３	１５７５	毛利氏は芸但和睦の功労で豊国に気多郡を割譲（４月）（「山田家古文書」）
天正４	１５７６	輝元、豊国に鹿野城返還を迫る（１０月）、輝元、湯原元綱に鹿野城複数在番を命ず（１１月）
天正７	１５７９	南条氏、毛利方を離反し、織田方につく（９月）
天正８	１５８０	秀吉軍の攻撃で毛利方の人質を奪う（５月）城主鹿野某と亀井茲矩ら在番（「陰徳太平記」）
		鹿野城の鹿野某が退去、荒神山を普請し在城。鹿野には亀井一人が残居（９月）
天正９	１５８１	鳥取城落城（１０月）

編集・発行
鳥取県埋蔵文化財センター
〒680-0151　鳥取市国府町宮下 1260 番地
TEL.0857-27-6711　　E-mail.maibuncenter@pref.tottori.lg.jp
FAX.0857-27-6712　　ホームページ https://www.pref.tottori.lg.jp/maibun/
フェイスブック https://www.facebook.com/tottorimaibun

※資料の転載・引用はご遠慮ください

狗戸那城跡（くしなじょうあと）　現地説明会資料

令和2年7月　鳥取県埋蔵文化財センター

1 はじめに

鳥取県埋蔵文化財センターでは、令和元年度から中世城館の再調査事業を行っています。

初年度は西因幡地域を中心とした山城の踏査や文献調査を行ってきましたが、今回は学術的な観点からこの地域の歴史を解明する手掛かりを得るため試掘調査を行いました。

調査に当たってご同意をいただきました地権者様、ご理解とご協力をいただきました地元の皆様に改めてお礼申し上げます。

①会下谷（狗戸那城麓）から狗戸那城を眺める

②鷲峰山を北麓から眺める

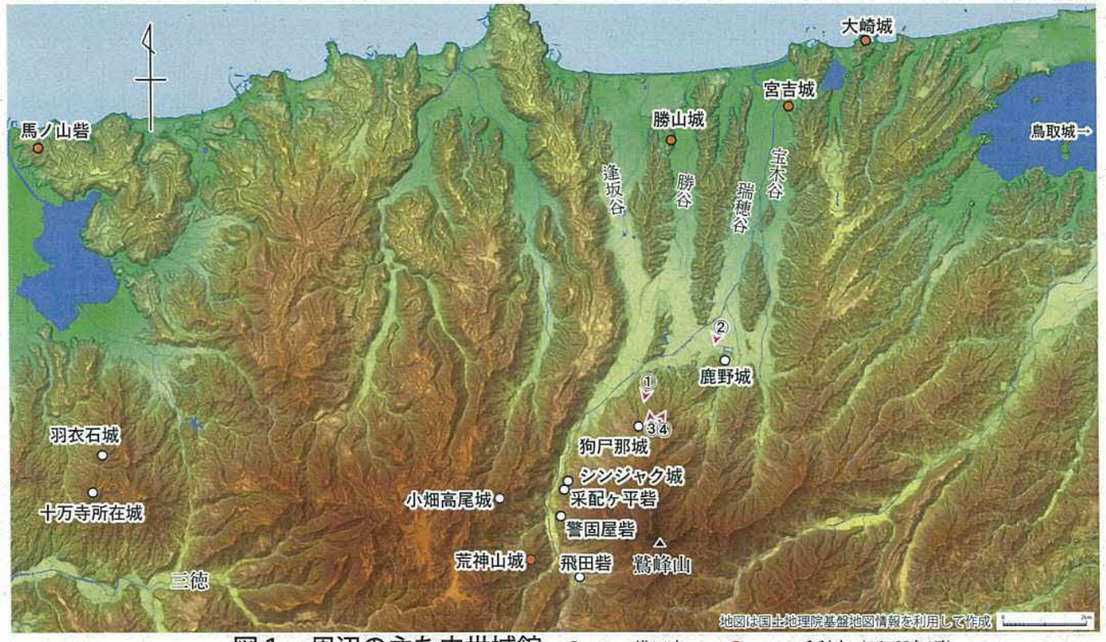

図１　周辺の主な中世城館　○・・・織田方　●・・・毛利方（天正8年頃）

③狗戸那城から逢坂谷を望む

④狗戸那城から宝木谷を望む

2 狗戸那城の概要

狗戸那城跡は、鳥取市鹿野町から東伯郡三朝町三徳方面に至る街道を扼し、日本海側の平野部、沿岸部に展開する敵城をも視認できる、鷲峰山から北側に派生する尾根の先端部、標高352m（比高 260m）に位置しています。周辺には鹿野城跡・羽衣石城跡、それを分断する荒神山城跡、それに対する陣城群跡などが存在します。令和元年度に行った地表観察では、郭、切岸、竪堀、横堀、土塁、堀切などの遺構を確認しています。

今回は、頂部の主郭（郭1）、郭2、竪堀と横堀の切り合い部を調査し、これまでに礎石建物跡などの遺構を検出しています。

3 確認した遺構と遺物

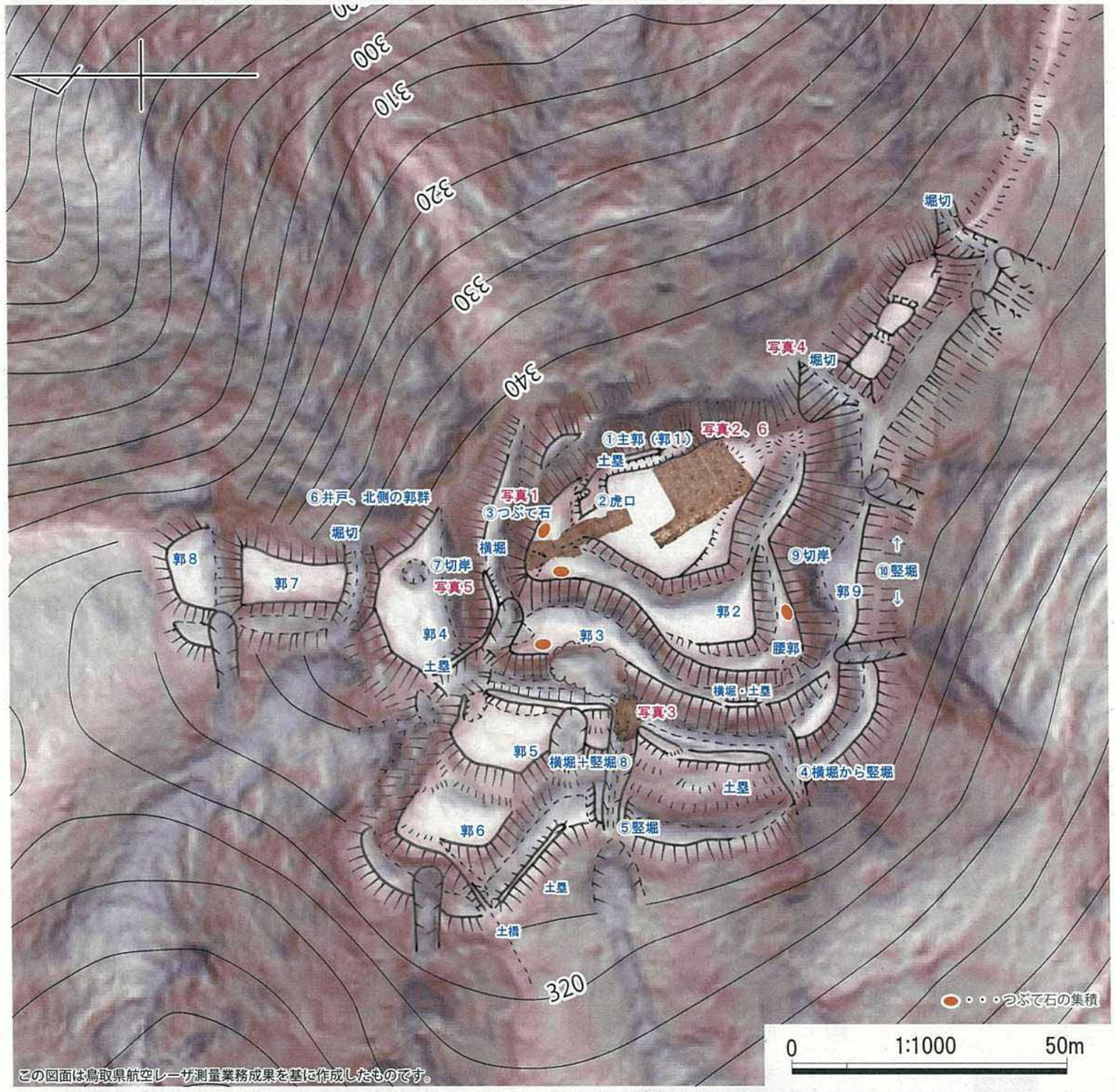

図２　狗尸那城縄張り図

写真１　つぶて石

敵が進入する動線の直上曲輪の端部、4か所に礫石が置かれています。侵入してくる敵を迎撃するための武器として配置していたと考えられます。

写真４　堀切

主郭背後は高さ7m級の2本の堀切により遮断していますが、縁辺の堀切は浅いです。

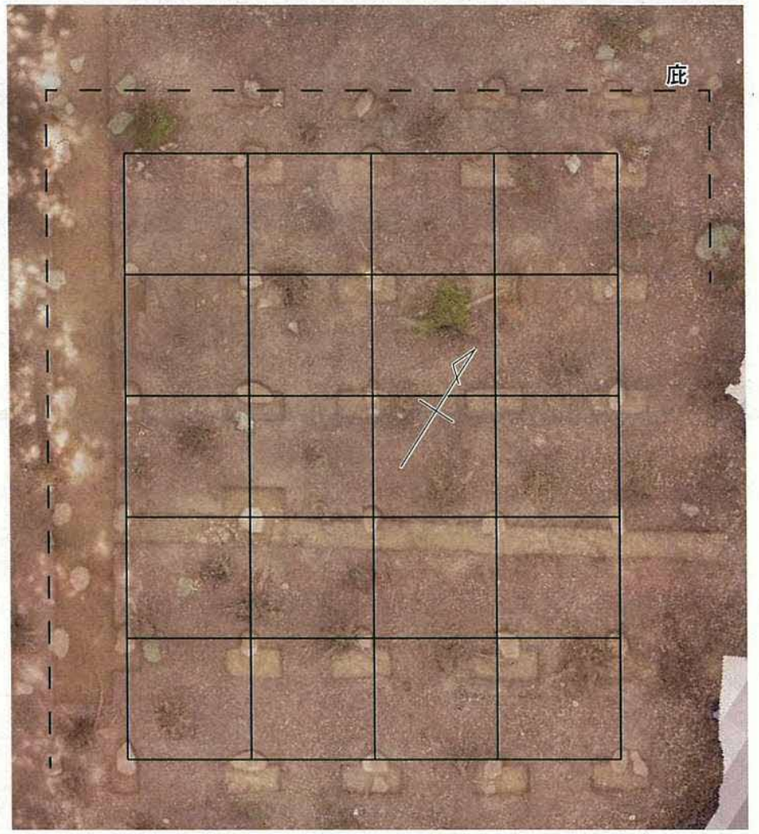

写真２　真上から礎石建物を見た様子

写真５　切岸

主郭周辺の切岸は10m以上ですが、縁辺の切岸は低いです。

写真６　礎石建物の調査状況

頂部にある北西ー南東方向に長い主郭（長軸30m、短軸20m）の奥で、平坦面の幅いっぱいにつくられた3面庇（ひさし）を備える大型の礎石建物跡（4間×5間）を確認しました。

8.1m×9.9m（庇は除く）

礎石は自然石で長辺約 30 ～ 60 ㎝

写真３　横堀と竪堀

竪堀の上端には、水平方向に延びる横堀が掘削され、土塁が築かれています。堀底から土塁頂部までは高さが約1．8mあります。竪堀を上ってくる敵を迎撃する際などの城兵の通路として作られたと考えられます。

横堀動画を
Youtube で公開↓

用　語　解　説

●郭・曲輪【くるわ】
尾根や斜面を造成してつくった平場。

●虎口【こぐち】
城や郭の出入口。

●切岸【きりぎし】
敵の侵入を防ぐため切り崩した人工的な急崖。

●土塁【どるい】
郭や堀の縁辺などに土を突き固める等して造った防御用の高まり。

●礎石建物【そせきたてもの】
柱の下端を石で受ける礎石を用いた建物。

●竪堀【たてぼり】
斜面での敵の横移動を防ぐために掘られた空堀。

●堀切【ほりきり】
尾根伝いからの攻撃を遮断するための空堀。